



こんにちは 府會議員
さこ祐仁 です

2007年6月10日発行 No.41
日本共産党北地区委員会
432-3261
上京生活相談所813-2117



日本共産党は誰もができる年金制度をつくるために奮闘します

■なぜこんな「こと」?

十年前の1997年に、国民年金や厚生年金などの年金手帳の番号を全国民共通の基礎年金番号に統合しました。この時に、転職や結婚で姓が変わったなどのケースや入力ミスなどにより、5千万件もの年金が誰のものかわからなくなっているのです。

現在登録されている自分の年金加入記録は、社会保険事務所や社会保険庁のホームページなどで確認することができます。

■「1年以内に調査」言いが...

この問題に対する政府の「解決策」は、国民の不安にこたえるものになっていません。

安倍総理は答弁の中で、「宙に浮いた5千万件分を1年以内に調

べる」といいましたが、その手順などはあいまいなままです。そもそも十年間かけてもできなかったものがなぜ1年以内でできるのか。照合するソフトも今から開発するといふのですから、いいかげんとやわぎるを得ません。

参院選前に「実績づくり」を急いだと言われていますが、かえって国民の支持を失っている事態です。

■「社保庁解体」で歴代政府の責任放棄は許されない

政府はいま、「社会保険庁の『親方日の丸』の体質がこうした事態をつくった」などと言って、社会保険庁の解体を強調しています。確かに社会保険庁の改革は必要ですが、しかし、「親方」とい

うのは総理であり、厚労大臣ではなかったのか。自らの責任は棚に上げ、「社保庁解体」で歴代政府の責任放棄は許されません。また、いま解体してしまえば、「消えた年金」に対する国の責任も消してしまうだけです。

■全加入者への真摯な調査で解決を

日本共産党は、記録証拠がなくとも状況証拠で解決することや、全加入者に調査対象を広げること、年金記録の情報をきちんと提供し、相談体制をとることなどを要求しています。



**つれづれ
ブログ**

公式行事

3日、京都市消防団総合査閲に参加しました。

た。ポンプと火事の現場までの往復などその距離が半端でないのに驚きました。

さて、議員になるとこうした公式行事にも出席します。席しなな慣れません。

はじめての議会 がんばってます

府會議員になってはじめての議会がわかりました。いやはやとまどうことばかりでした。初議会では、常任委員会、特別委員会のあり方、本会議での代表質問、一般質問のやり方、正副議長や監査委員の選出が協議の対象です。各会派内での意見を取りまとめて世話人会で協議されますが、わが党以外は会派内での意見がまとまらず、結局「検討中」が続きます。さらに、「共産党を除く」与党会派内での正副議長、監査委員の配分をめぐる調整が難航。結局深夜にまでおよぶ始末でした。「共産党排除」で、自分たちは権力争い。そんな構図が早くも透けて見える初議会でした。私たちはそんな議会を、少しでも民意が反映するよう、さらに民主的に運営されるようがんばります。

**6月15日 政治を語ろう
日本共産党演説会**



西陣織会館4階
午後7時より
**ぜひ
おこしく下さい!**